

通級指導教室における早期からの教育相談

(課題番号 : 1 1 6 1 0 3 0 7)

平成 11 年度 ~ 平成 13 年度科学研究費補助金 (基盤研究(c)(2)一般)

研究成果報告書

平成 14 年 2 月

小林 倫代

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

聴覚・言語障害教育研究部

序

平成5年の1月に通級による指導が学校教育の制度上に位置付けられ、まる9年の歳月が過ぎた。その間、小・中学校においては、第6次の教職員定数改善計画が実施され、全国的な通級による指導の普及を見たところである。

通級による指導の全国的な展開が進められるとともに、一方では新たな課題も見いだされてきた。平成13年の1月には、文部科学省に設置された調査研究協力者会議より「21世紀の特殊教育の在り方について」と題する答申が出され、これまでの特殊教育という枠組みにとどまらず、特別支援教育として、小・中学校に在籍する特別な教育的ニーズのある子どもたちへの支援の在り方が模索されることとなった。

本研究は、こうした教育改革の流れの中で、いわゆる通級指導教室の果たすべき役割について検討することを目的としており、特に、通級による指導の新たな発展として、障害のある乳幼児やその保護者等に対する早期からの教育相談の在り方について、地域の特色に応じて実践的に究明することを意図したものである。

通級による指導は、もともと、言語障害の子どもたちに対する望ましい教育的対応を模索する中で、教師や保護者の協力とそれによって子どもたちの成長・発達を促すというまさに試行錯誤の実践を通して形作られてきた教育形態であるが、近年は、障害の早期発見、早期対応が進められていく中で、医療、教育、福祉の連携の在り方、つまり、通級による指導も含め、個々の子どもたちの望ましい成長・発達を可能にするための新たなシステム作りが焦眉の急となっている。

行政改革の一環として教育の地方分権化が進行する中、地域では、通級による指導の新たな発展として様々な実践が行われており、これらを集約して情報提供を行うことは、通級による指導、ひいては特別支援教育の在り方にも種々の指針を与えるものと期待するところである。例えば、早期療育システムにおいて、ことばの教室が果たしてきた役割に関する事例、あるいは、町ぐるみで子どもや保護者に対する相談体制の確立に努めた事例などは、今後、それぞれの地域の特性に応じたシステム作りを進めていく上で大いに参考になると思われる。また、地域との深い結びつきをもったことばの教室等が、支援を必要とする子どもの暮らしに焦点を当て、いかに保護者の子育てを支援してきたかなどの実践事例も、今後の通級指導教室の在り方を模索していく上で参考になる。

本研究は、教育実践に携わっておられる先生方の協力を得て進めることができ、さらに、それぞれの実践のひとこまを報告書にまとめることができた。本書が、多くの関係者によって活用され、障害のある子どもやその保護者への実際的な相談活動とそのためのシステム作りに寄与することにつながれば望外の喜びである。

関係各位の忌憚のないご助言と今後一層のご協力をお願いする次第である。

平成14年2月

聴覚・言語障害教育研究部長

穴戸 和成

目 次

序

穴戸 和成

研究組織

研究の趣旨及び目的

研究の結果

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1．障害の早期発見・対応の制度や施策の変遷 | 小林 倫代 |
| 2．難聴・言語障害教育における幼児担当者の実態 | 久保山茂樹 |
| 3．通級指導教室における早期からの教育相談に関する事例 | |
| 北海道の早期療育システムとことばの教室 | 池田 寛 |
| 学校ぐるみ、町ぐるみの子育て支援体制作り | 八木 玲子 |
| 島根県における幼児通級の実態と指導の実際 | 松原 洋司 |
| 静岡県袋井市における幼児対応の実際 | 窪野 里美 |
| 群馬県玉村町におけることばの教室の役割と指導の実際 | 都丸 和好 |

考 察

- | | |
|---------------------|-------|
| 通級指導教室における早期からの教育相談 | 小林 倫代 |
|---------------------|-------|

資 料